

The image shows the interior of a modern gallery space. A large, dark, textured rock formation is the central feature, partially enclosed by a white, angular architectural structure. To the left, a large window with a black frame looks out onto a dense forest of trees with prominent, light-colored roots. In the foreground, several long, dark wooden tables and ornate wooden chairs are arranged. The ceiling is white with a recessed light fixture.

CASA DE

26

2-13-10, Komone, Itabashi-ku,
Tokyo, 173-0037, Japan
Tel: +81 (0)3 6276 5323
contact@gallerycasade.com



ABOUT US

2019 -

CASA DEは、歴史的なモダニズムデザインを、過去の名作としてではなく、現在へと続く文化として紹介するギャラリーです。

私たちの活動は、約15年前にヴィンテージ家具を扱うことから始まりました。現在も複数のヴィンテージ家具ギャラリーを運営しながら、世界各地で買い付けやリサーチを続けています。その過程で私たちは、デザイナーの家族や財団、そして当時から受け継がれてきた工房が、いまもなお家具を作り続けていることを知りました。

過去の作品を「残されたもの」として扱うだけでなく、いまでも続く技術や思想として未来へつないでいくこと。その考えから、2019年に現行品を扱うギャラリーとしてCASA DEをスタートしました。

私たちは、ヴィンテージを扱ってきたからこそ、現行品に取り組む意味があると考えています。過去に制作された作品と現行品を並べて見ることで、時代ごとの更新や、デザイン思想がどのように継承されてきたのかを比較し、検証することができます。また、財団や遺族、工房と対話を重ねながら復刻や企画展に取り組むことは、技術や文化を次の時代へ受け渡し、現在も制作を続ける人々を支えることにもつながります。

CASA DEは、家具を販売する場であると同時に、デザインにまつわる歴史や思想を読み解き、作り手と使い手、過去と現在をつなぐ媒介でもあります。アーカイブの調査、関係者への取材、企画展の開催、復刻プロジェクトなどの活動は、日々の販売と切り離されたものではなく、すべてがひとつの文化的な営みとしてつながっています。そのため私たちは、こうした活動全体を単なるショップの枠に収めるのではなく、ギャラリーとして位置づけています。

私たちが扱う家具は、ブラジル、フランス、スリランカ、インド、日本など、さまざまな土地に由来しています。その中心にあるのは、大量生産のためのデザインではなく、地域の文化、気候、素材、そして職人の手仕事と結びついたモダニズムデザインです。同時に、その思想や技術を受け継ぐ工房、またその延長線上にある現代の作り手によるコンテンポラリー作品も紹介しています。

モダニズムは、装飾的な歴史様式から離れ、建築や生活を新しく捉え直そうとした思想でした。その展開は一樣ではなく、工業化や大量生産へ向かった流れもあれば、土地の風土や手工芸と結びつきながら、独自の合理性を育んだ流れもあります。私たちは、そうした地域性や手仕事と結びつきながら発展したモダニズムと、その精神を現代へ受け継ぐデザインに焦点を当てています。

家具や空間に宿る思想を、過去から現在、そして未来へとつながる文化として伝えていくこと。私たちは、先人たちが築いてきた思想や技術への敬意を持ち、その背景にある歴史や文化を丁寧に調査し、次の世代へと受け継いでいくための活動を続けています。



V-leg Office Chair

Size: W510 D600 H780 SH435 AH665 mm
NT,DS/BK



Armless Dining Chair

Size : W445 D525 H860 SH445 mm NT,DS



Cross Easy Chair

Size : W560 D750 H720 SH365mm NT,DS



Kangaroo Armless Lounge Chair

Size : W585 D765 H600 SH335mm NT,DS





Easy ArmChair

Size: W575 D715 H700 SH370 AH580 mm NT,DS/BK



Library Chair

Size : W455 D470 H760 SH445mm NT,DS





Teak and Cane Bench
Size : W1375 D460 H380 SH380mm



Upholstered Easy Armchair
Size : W700 D780 H750 SH390mm



Square Table
Size : W915 D915 H710mm



Side Table V-Leg
Size : W744 D372 H559mm



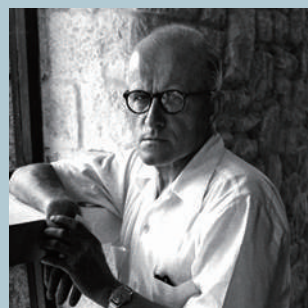
Study Desk X-Leg
Size : W1143 D710 H710mm



Folding Screen
Size : W1639 D38 H1676mm

PIERRE JEANNERET

1896 - 1967



ピエール・ジャンヌレ

スイス、ジュネーヴ生まれ。

建築家であり、建築理論家、製図家、彫刻家、家具デザイナーでもあったピエール・ジャンヌレは、1921年にジュネーブ美術学校を卒業後、パリへ移住し、従兄弟であるル・コルビュジエとともにアトリエを開設しました。ル・コルビュジエやシャルロット・ペリアンらと共に、20～30年代の近代デザイン界を牽引した人物のひとりです。サヴォワ邸やクラルテ邸、パリのパヴィヨン・スイスなど、20世紀を代表する建築作品の設計にも携わりました。

第二次世界大戦中、ル・コルビュジエがヴィシー政権を支持した一方で、ジャンヌレはレジスタンス活動に参加したことで、長年の協力関係は終わりを迎えます。しかし1955年、インドの新首都チャンディーガル計画のために再び協働することとなりました。ル・コルビュジエは早くにプロジェクトを離れましたが、ジャンヌレはその後15年間インドに留まり、建築と家具デザインのチーフアーキテクトとして活動しました。

当時のインドは工業化が進んでおらず、ジャンヌレは現地の伝統工芸や素材を活かしたデザインを追求します。チーク材やサトウキビなどの地元素材を用い、シンプルな技術によって家具を制作しました。軽量で実用的、そして取り外し可能な家具を多く生み出し、そのデザインは簡素でありながら温かみと美しさを備えています。限られた素材や環境の中で、何ができるかを探求する姿勢から、多くの名作が誕生しました。

また、自治体のアドバイザーとして公共施設や住宅設計にも携わり、建築から家具、空間全体までを一体としてデザインしました。彼の思想は単なる機能性や形式に留まらず、人々の暮らしに寄り添い、自由や喜びを感じさせることにありました。

ジャンヌレの作品は、モダニズムと手仕事の温かさを融合させた普遍的な魅力を持ち、現在でも世界中のコレクターやデザイン愛好家から高く評価されています。

Project Chandigarh

「プロジェクト・チャンディーガル」は、ジャンヌレがコルビュジエとともに多くの建築物を設計したインドの「チャンディーガル都市計画」の際、様々な建物のためにデザインした家具シリーズを再生産しているプロジェクトです。当時、同時期に大量の家具を必要としたため、ジャンヌレは現地インドで入手可能なチークの無垢材を用い、図面と大まかなアドバイスのみで製作可能なデザインを考えました。そのため同じ図面からつくられたにも関わらず、大きさや比率、部材の太さや角度などが様々な工房の職人によって異なる作品が数多く生産されたのです。このプロジェクトでは、当時のオリジナルの図面が残っているプロダクトのみを忠実に復刻しています。今では入手が困難となったチーク材は、新材とともに、築100年以上の建物に使われていた古材を再利用し、インドの工房「Phantom Hands」によって一つ一つ職人の手で制作されています。



Girafa Chair

Size : W390 D430 H760 SH450 mm



Girafa Stool

Size : W390 D340 H450 ϕ 330 mm



Girafa Table

Size : ϕ 700 H720 mm



Girafa Bar Chair

Size : W390 D460 H950 SH760mm



SESC Pompeia Chair
Size : W400 D500 H640 SH445mm

Carbon Girafa Chair
Size : W390 D430 H760 SH450mm



Little Box for SESC Pompeia
Size : W660 D580 H580mm



Girafa Embroiderer
Size : W350 D430 H690 SH250 mm



Masp Chair
Size : W460 D585 H875mm

LINA BO BARDI

1914-1992



リナ・ボ・バルディ

イタリア・ローマ生まれ。

ジオ・ポンティのもとでキャリアを積み、アートディーラーであったピエトロ・マリア・バルディと結婚しました。その後、サンパウロ美術館の立ち上げのため招致された夫と共にブラジルへ渡ります。家具デザイナーとしては、1949年にジャンカルロ・パランティとともに「スタジオ・ダルテ・パルマ」を設立。その工場はたった2年間のみの活動ではありましたが、プライウッドやブラジル原産の材料を使ったシンプルな構造のモダン家具を製造しました。リナが初めて家具のデザインをしたのは1947年サンパウロ美術館の講堂のための椅子でした。

1951年リナが36歳の時に、サンパウロのムルンビに、最初の建築作品となる自邸「ガラスの家」を設計し家具も手がけました。「ガラスの家」は建築作品としてのリナの処女作であり、内装や家具も含めてデザインした自邸です。傾斜地に建つこの住宅は、眺望の開けた方角を全面のガラスファサード、山側を伝統的なデザインの居室部分として周囲の風景との一体化を図りながらリナ作品の特徴の一つである「現代建築と土着的建築の融合」を見事に表現している作品です。建設当時は植生のなかった土地にひとつひとつ植えられたのは全てブラジル原産の植物でした。ブラジル原産の熱帯植物を用いて建築をデザインすることはリナの特徴のひとつでもあります。リナは植物が単に好きだっただけではなく植物の種類を見分け、その特徴について語ることができました。植物への興味は生涯尽きることがなく、自然が環境のバランスを保ち、人類により良い生き方を教えてくれるという信条がインテリかつ現場主義者のリナの特質の根底にありました。この自邸の完成と共にリナはブラジル国民となりブラジルで生きていくことを選択しました。

リナは1973年4月と、「SESC ポンペイア文化センター」設計中の1978年10月(58歳と64歳の時)に日本を訪れています。1回目は京都を中心に、2回目は東京を中心に鎌倉・日光をまわり、建築や風景、食事、文化、そして人びととの交流を楽しみました。建築家・丹下健三のもとを訪ねたともいわれています。リナは旅先で多くのスケッチやメモを残しており、この旅はその後の生き方へも大きな影響を与えたことが伺えます。リナが日本を捉える視点には、西欧と地理的に離れている独自の文化をもつブラジルとの共通点も含まれていました。ブラジルのあるべき姿を考え続けたリナにとって、国が独自の文化を守りながら近代化を進める日本の姿は、良い対象でもありました。規格的でありながらさまざまな組み合わせが可能な量や日本の伝統的な建具のシンプルな美しさに以前から興味をもっていたリナは、寺院や日本家屋、鎌倉近代美術館を訪れました。

1986年には、サンパウロ美術館の改築や、1986年のSESC ポンペイア文化センターなど公共建築物をいくつも手がけています。イタリア・ミラノのNilufar Galleryが彼女にフィーチャーした展示を催した影響もあり、コレクター達からも大きな注目を集めています。

ブラジルでは「外国人」であり「女性」でもあったため難しい時代を過ごした彼女でしたが、多くの建築作品を残し、建築とデザインの社会的・文化的な可能性に追求した人生でした。



Round Dining Table T21A,B,D,E
4Size



Round Stool S31- A,B,C
3Size



Chair with 7-shaped Back S34
W400 D500 H730mm



All Wood Chair S28
W400 D400 H830mm



Wooden Bench and Cushion L09

[L09F] Simple 3 seats bench
Size: W1960 / D760 / H290mm

[L09G] 3 seats bench with back
Size: W1960 / D760 / H530mm



Shelves B30 -1

5 Types





Full-stretched Leather Armchair S10-A
W680 D630 H590mm



Full-stretched Leather Armchair S10-B
W680 D630 H590mm



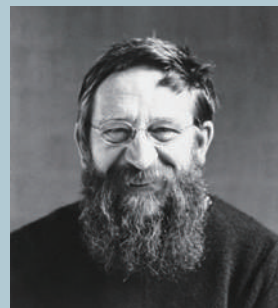
Full-stretched Leather Armchair S10-A



Large 4 Doors Sideboard R16
W2930 D610 H1120mm

PIERRE CHAPO

1927 - 1987



ピエール・シャポ

フランス・パリ生まれ。

シャポは当初、プロの画家を目指していましたが、造船技師との出会いにより木材や木工芸に魅了され、パリ国立高等美術学校で建築を学ぶことを決意します。卒業後は、妻で彫刻家・画家のニコル・ロルミエとともに北欧や中米を旅し、フランク・ロイド・ライトの自宅兼アトリエ「タリアセン・ウエスト」を訪問。この経験は、その後のシャポの作品や思想に大きな影響を与えました。

1950年代末に帰国したシャポは、妻の協力を得ながら自身のデザインを制作・販売し始めます。彼のデザインはすぐに注目を集め、初期の顧客にはサミュエル・ベケットも名を連ねました。ベケットの戯曲にちなみ、「Godot-bed」も制作しています。

1958年、ニコルとともにパリのオピタル通りに高級ショッップ「Galerie Chapo」を設立。自身の作品だけでなく、イサム・ノグチらの作品も展示しました。シャポはノグチの有機的な工芸観に共感し、工業化が進む時代に対して、手仕事による温かみや素材の美しさを重視しました。家具は単なる実用品ではなく、美的価値を備えるべきだと考え、黄金比を重視したデザインを展開。オーク、ニレ、チーク、アッシュなどを用い、伝統木工と現代的感覚を融合させた作品を数多く生み出しました。1960年にはパリ市より金賞を受賞しています。

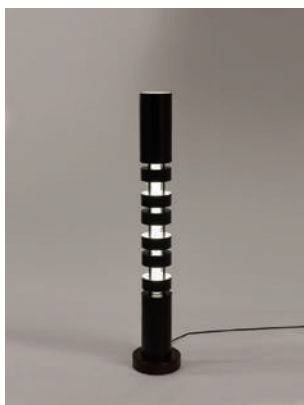
また、シャルロット・ベリアンがアルプスのスキースタート「レザルク」のために制作した作品にも影響を受け、1967年の装飾芸術家協会展に参加し受賞。同年、家族とともにプロヴァンス地方ゴールドへ移住しました。自然豊かな風景に触発され、彼のデザインはより無骨で力強く、土地に根ざしたものへと変化していきます。

ゴールドでは職人を雇い入れ、生産体制を整えたことで需要にも応えられるようになり、「Oeil table」「T01 table」「S01 stool」「T21 Table」「L01 "Godot" daybed」など、戦後フランス家具デザインを代表する名作を次々と発表しました。作品は高いクラフトマンシップと彫刻的な美しさを兼ね備え、現在でも世界中のコレクターから高く評価されています。1987年、ゴールドへ移住してから20年後に死去。

その後は息子フィデル・シャポが、父との思い出の地であるゴールドに「Chapo Gordes SA」を設立し、父の思想と技術を継承しました。フィデル自身も優れた職人として知られ、彼が制作した「フィデル・エディション」は高い人気を集めます。しかし2021年、54歳という若さで他界。現在は孫のゾラン・シャポが工房を受け継ぎ、同じゴールドの地で制作を続けています。シャポは30年にわたり、家具製作と建具の伝統工芸へのこだわりを貫きました。彼の作品には、モダンデザインと伝統的職人技、そして木材への深い愛情が表現されています。



Floor lamp "Big Totem"
Size : W180 D180 H1730mm



Floor lamp "Small Totem"
Size : W180 D180 H1170mm





Floor lamp "Small Signal"
Size : W125 D125 H1080mm
W180(base) D180(base) H-mm



Floor lamp "Big Signal"
Size : W160 D160 H1920mm
W330(base) D330(base) H-mm



Floor lamp "Very Big Signal"
Size : W160 D160 H2220mm
W330(base) D330(base) H-mm



Sconce 1 rotating straight arms
Size : W930 D H360mm



Sconce 1 rotating curved arms
Size : W990 D H400mm



Sconce 1 arm 2 swivels
Size : W700 D- H-mm



Sconce 2 rotating straight arms
Size : W1340 D H750mm



Sconce 2 rot. arms, 1 straight, 1 curved
Size : W1750 D- H700mm



Sconce 3 rotating straight arms
Size : W3790 D- H1080mm



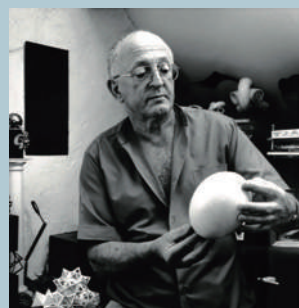
Sconce 4 rotating straight arms
Size : W4660 D- H1600mm



Sconce 5 rotating straight arms
Size : W4500 D- H400mm

SERGE MOUILLE

1922 - 1988



セルジュ・ムーユ

フランス・パリ生まれ。

1922 年 12 月 24 日にセルジュ・ムーユは 3 人兄弟の末っ子として、警察官の父と、在宅勤務の裁縫師であった母の間に生まれました。少年時代は、見た植物や動物を描くのに数え切れないほどの時間を費やしました。葉脈の動き、貝の成長の仕方、動物の骨格や関節の解剖学的構造など、これらのディテールに対する好奇心が、後に彼の作品の大きな特徴となります。

セルジュ・ムーユは、当時のデッサンの先生の勧めで、パリの応用美術学校の入学試験を受けました。どんな学生が学んでいるのかも知らず、両親にも受験することを伝えていなかったセルジュは 13 歳にして試験に合格し、当時の応用美術学校の最年少生徒となりました。応用美術学校では、世界的な彫刻家であるガブリエル・ルネ・ラクロアから金属加工と銀細工を学び、1941 年に卒業した後、彼のスタジオで働くことになりました。

1953 年にジャック・アドネに照明器具のデザインを依頼されたことをキッカケに、その後の人生を照明の製作に捧げました。セルジュは、角ばった昆虫のような大型の壁掛けランプや、複数のアームを持つスタンド型ランプ、さらには小型で曲線を多用した壁掛け型の照明器具をデザインするなど、空間の動きを感じさせる運動的でありながら、彫刻的にも美しいフォルムを追求しました。シェードの形状は、女性の体形からインスピレーションを得ています。彼の最初の照明デザインとなった「スリーアーム・フロアランプ」をはじめとしたこの時期の作品は、主にパリの「Galerie Steph Simon」で展示をされ、この頃からジャン・ブルーヴェ、シャルロット・ペリアンとの交流が始まりました。

1955 年には、フランスの美術館連合組織である Society of Decorative Artists (装飾芸術家協会) と French National Art Society (フランス国立芸術協会) の会員となります。1950 年代の終わり頃、セルジュは施設の照明をデザインするようになり、アントニー大学、ストラスブールとマルセイユの学校、ビゼルト大聖堂の照明を手掛けました。1961 年には、SCM (societe de creation de modeles) を設立し、かつての生徒の一人であるフィリップ・ロジェを雇って、生産面の改革をおこないました。セルジュは、このタイミングでライトやランプのラインに変更を加えるなど、再び自身の作品に新しさを取り入れようとしていました。それまで、産業用としての活用に限定されていた光源である蛍光灯に着目し、新たなフロアランプシリーズである「Les Colonnes」を 1962 年に発表しました。セルジュの代名詞となっていた黒いフォルムを思い起こさせるものではなく、それまでの機能的な照明とは一線を画すデザインとなった「光の柱」は、機能的よりも芸術的な意味合いが強く、丸、四角、直角といった純粋な幾何学的なモチーフは、当時のフランスではあまり受け入れられませんでした。その後、「Les Colonnes」も注目を浴び始め、現在では「Black Shapes」シリーズとならび、オークションにて高額で取引されるセルジュ・ムーユの代表作のひとつとなりました。



Mole Armchair

Size : W1200 D1050 H820mm

Mole Footrest

Size : W820 D480 H450mm



Mole Sofa 3P

Size : W2200 D1100 H820mm

Mole Sofa 2P

Size : W1850 D1100 H820mm



EP12 Mirror

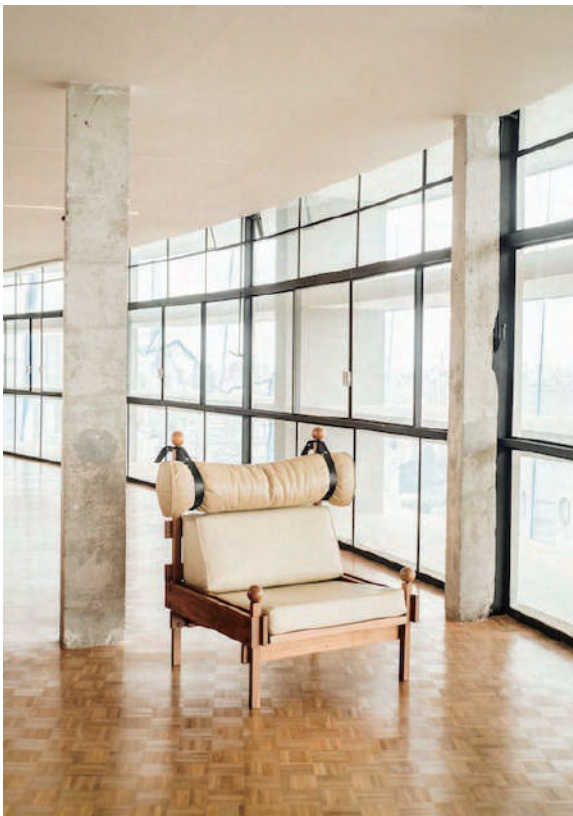
Size : W800 D65 H800mm



Kilin Armchair [cowhide]
Size : W680 D630 H690mm



Kilin Armchair [Leather]
Size : W680 D630 H690mm



Tónico Armchair
Size : W1050 D830 H1030mm

Tónico Ottoman
Size : W860 D500 H420mm



Gio Armchair
Size : W850 D780 H1000mm

Gio Ottoman
Size : W750 D550 H370mm



Vivi Armchair

Size : W900 D900 H940mm

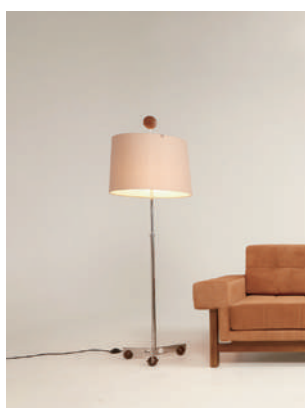
Vivi Ottoman

Size : W600 D600 H370mm



Leif Bench

Size : W1800/2200/2600 D500/550/600 H400mm



Sergio Augusto Floor Lamp

Size : W500 D500 H1400-1800mm



Burton Table

Size : W2000 D950 H750mm / W2800 D1200 H750mm

SERGIO RODRIGUES

1927 - 2014



セルジオ・ロベルト・サントス・ロドリゲス

ブラジル・リオデジャネイロ生まれ。

ブラジルを代表する建築家やデザイナーとして、傑出した個性を発揮した人物。ジョアキム・テンレイロ、ホセ・ザニン・カルダスらとともに、ブラジルのデザインを工業デザインに転換し、世界に知らしめたパイオニアです。

1952年にリオデジャネイロの国立建築大学を卒業したロドリゲスは、「わが民族の精神」を表現できるようなデザインを求めて、彼自身が言うように「必死の探求」を行いました。機能性を追求した家具や国際的なデザインが重視されていた時代に、ブラジルの気候やのんびりとしたライフスタイルに適した快適さを備えつつ、その土地の文化を反映した家具が必要だと考えたのです。やがてロドリゲスはクリチバに移り住み、ハウナー兄弟と共同でモヴェイス・アルテサナル・パラナエンセを設立します。クリチバ初のモダン家具店として注目を浴びましたが、店は成功しませんでした。1955年、故郷のリオデジャネイロに戻った彼は、ブラジルで最も影響力のある大規模な家具メーカーOCAを設立し、ブラジル家具の生産に新たな局面を告げる店となります。

1950年代から60年代にかけての絶頂期には、モダニズムに則った家具デザインを手がけ、デザインにおいても、革、木、籐といった伝統的な素材を用いて、彼の母国の文化を高揚させました。「Mole Armchair」はニューヨーク近代美術館(MoMA)のコレクションにもなっており、現在でも垂涎の的となっています。

1968年、ロドリゲスはOCAを退社しましたが、自宅のスタジオでホテルや住宅、職場の家具からプレハブ住宅のシステムまで、さまざまなデザインを生み出し続けました。彼は、自分のプロジェクトの図面だけでなく、家具や日常の風景、そして自分自身を描いたユーモラスなイラストを集めていました。デザイナーであるフェルナンド・メンデス・デ・アルメイダは、彼の師であり、友人であり、いどこである彼のことをこのように語っており、クリエイターの重要性を強調しています。「アーティストとして、また公人としてのセルジオ・ロドリゲスの姿は永遠であり、私たちの生活史や国の歴史と融合しています。ブラジル人アーティストの中で、これほど長い間、私たちの文化、生活様式、そして私たちのあり方を、これほど強い決意で守り続けた人はほとんどいないでしょう。これほど長く生産的な生涯を送ったデザイナーはほとんどいないでしょう。」

セルジオ・ロドリゲスは2014年、リオデジャネイロで逝去しました。

60年のキャリアを通じて、宮殿、官庁、外交官、ホテル、劇場、企業、家庭などに置かれる約1,200ものモデルの家具を制作しました。彼の作品は、それぞれの建築空間の必要性を理解し、その時々利用可能な資源からデザインし、優雅さと想いが集約されています。



RICARDO FASANELLO



Esfera Loungechair

Size : W1120 D1120 H910 SH510mm

Anel Office Chair 60s

Size : W680 D680 H700 SH420-500mm



Anel Chair 60s

Size : W680 D680 H800 SH500 BASE500mm



Anel Chair 80s

Size : W680 D680 H800 SH500 BASE450mm



GAIVOTA Lounge Chair 60s
Size : W1000 D750 SH350 BASE650mm



GAIVOTA Lounge Chair 80s
Size : W1000 D750 SH350 BASE650mm



Fardos Loungechair
Size : W1200 D1100 H950 SH370mm
Fardos Sofa 2P / 3P / 4P
Size : W1600 / 2000 / 2400 D1100 H950 SH370mm



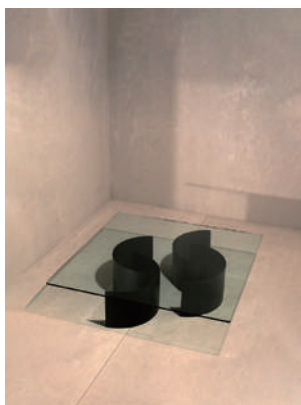
Anel LoungeChair 60s

Size : W780 D780 H700 SH350 BASE600mm



Anel LoungeChair 80s

Size : W780 D780 H690 SH340 BASE500mm



Arcos Coffee Table

Size : W1000 D1000 H320mm



Ciranda Side Table A

Size : W350 D350 H720mm

Ciranda Side Table B

Size : W500 D500 H450mm

Ciranda Side Table C

Size : W800 D800 H450mm



RICARDO FASANELLO

1930-1993



リカルド・ファザネロ

ファザネロは独学でデザインを学んだブラジルのアーティスト兼デザイナーであり、製作も手がける職人でした。幼少期から創造性に富み、14歳で帆船を設計するなどものづくりへの情熱を持ち続けました。裕福な不動産業の家系に生まれ、サンパウロの社交界でも知られていましたが、とりわけ車への情熱が強く、11歳で運転に興味を持ち、やがてレーシングカーの設計に没頭。20代前半にはボルシェで事故を起こし、1年間の入院を余儀なくされましたが、スポーツカーデザインへの挑戦を続けました。しかし、商業的な成功には至りませんでした。

1960年代にリオデジャネイロへ移住し、アーティストが集うサンタテレザ地区で家具デザインを開始。結婚を機に独学で家具づくりを学び、自宅をスタジオとして活用。ここは1993年の彼の死後も工房として稼働しています。

彼のデザインは、当時のブラジル家具では珍しかったグラスファイバーやポリエステル樹脂を積極的に取り入れた点が特徴です。ボートやストリートレーシングカー「バラチーニャ」の設計経験から空気力学への深い理解を持ち、それを家具デザインに応用。異素材を組み合わせ、張力や重量、圧力への反応を研究し、理想のレザーが見つからないと自らなめし加工を行うほどのこだわりを見せました。また、自動車のシート縫製技術を取り入れるなど細部まで工夫を凝らしました。

1968年には「ファルドスチェア」や「エスフェラ アームチェア」を発表。ポップアートの影響を受けつつ、セルジオ・ロドリゲスのカジュアルな美学とも共鳴し、工業的な素材とブラジルらしい天然レザーを融合。1970年には「アネル アームチェア」を発表し、技術力の高さを示しました。

1970年代初頭にはヨーロッパの家具見本市に招待され、国際的な評価を得る機会をつかみました。その後、サンパウロの新聞社「O Estado」のオフィスに「ファルドス」を設置するなど、企業からの依頼が増加。1980～90年代も制作を続け、晩年には再び自動車デザインに情熱を注ぎ、自宅の庭に作業台を設置して試作を行いました。

彼の作品は彫刻のような造形美とエレガントなデザインが特徴で、人間工学に基づいた快適性も兼ね備えています。この都会的で洗練されたスタイルは、1960年代のみならず現代においても独自の存在感を放っています。「エスフェラ」は2008年にサンフランシスコ近代美術館 (SF MOMA) のコレクションに加えられ、国際的評価を確立しました。

しかし、生前のファザネロは広く知られる存在ではなく、その独創的なデザインが本格的に再評価されるのは近年のことです。現在もサンタテレザの工房は稼働していますが、生産体制の拡充に伴い、リオデジャネイロの別エリアへ移転予定で、さらにベルリンにも新たな製作拠点を設立する計画が進められています。



Bentota Dining Chair
Size : W569 D552 H785 SH470 AH620mm



Lunuganga Dining Table
Size : W2400 D1040 H715mm



Bentota Lounge Chair / Upholstered Version
Size : W569 D552 H785 SH470 AH620mm



Bentota Lounge Chair / Cane Version
Size : W569 D552 H785 SH470 AH620mm



Leopold Seat
Size : W800 D548 H390mm



"Next Door Café" Chair
Size : W530 D470 H850 SH470 AH685mm



Kandalama Lounge Chair
Size : W571 D704 H868mm



Kandalama Perch Bench
Size : W1850 D900 H950 SH455mm



Saddle Chair
Size : W533 D505 H760 SH50mm



Unfolding Lamp
Size : W234 D234 H555mm



No. 11 Sofa Side Table
Size : W938 D633 H431mm



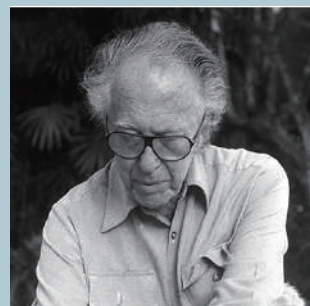
Conical Metal and Stone Lamp
Size : W353 D254 H816mm



No. 11 Guest Suite Sofa (White)
Size : W2125 D890 H815 SH407mm

GEOFFREY BAWA

1919 - 2003



ジェフリー・バワ

スリランカ生まれ。

ジェフリー・バワは、熱帯の風土とモダニズムを融合させた、スリランカ独自の建築表現を切り開いた存在として広く知られています。アジアにおける地域主義建築の重要な潮流を築いた建築家の一人であり、その思想と実践は、今日の建築界においてもなお高く評価されています。

1919 年、スリランカ（当時のセイロン）のコロンボに生まれたバワは、イギリスのケンブリッジ大学で法律を学んだのち、弁護士としての道を歩み始めます。しかしその後、建築への関心を深め、ロンドンの AA スクール（建築協会建築学校）で建築を学び直しました。正式に建築家として登録されたのは 38 歳のときで、比較的遅咲きのスタートでした。帰国後の 1950 年代後半から本格的に活動を開始し、やがてスリランカ各地で数多くの公共施設、宗教建築、ホテル、教育機関、個人住宅などを手がけるようになります。代表作には、彼自身の実験の場であった住居兼アトリエ「No.11」や、「ベンドタ・ビーチ・ホテル（1967）」、「カンダラマ・ホテル（1994）」、さらにはスリランカ国会議事堂（1982）などが挙げられます。

バワの建築は、気候、地形、植物、既存の建物といった「その場所の文脈」に対する深い洞察をもとに設計されています。空間の構成においては、外部と内部を柔らかくつなぐ構造を得意とし、回廊、池、庭園などを通じて緩やかな境界を生み出しました。自然光や風の流れを巧みに取り込み、時の移ろいとともに表情を変える空間は、建築と環境との共生を実現しています。また、バワにとって「屋根」は建築の象徴的要素であり、屋根の形状や質感、スケール感が建物全体の印象を決定づけると考えていました。スリランカの伝統建築を参照しながらも、モダニズムの合理性や幾何学的構成を融合させることで、重層的でありながら洗練された美意識を持つ建築を数多く生み出しています。

素材の選定においても、現地の石材や木材、漆喰などを積極的に用いながら、職人たちとの協働を通じて質の高いディテールを追求しました。その一方で、植民地時代の宗教施設や修道院の保存・再生プロジェクトにも取り組み、建築文化の継承にも貢献しています。建築にとどまらず、庭園や家具、グラフィックデザインに至るまで、バワは総合的な空間演出にこだわりを見せました。その空間は、単なる視覚的な美しさだけでなく、人が自然とともに過ごすための「居場所」としての豊かさを宿しています。彼の建築思想は、地域性と普遍性のあいだをたゆたうものとして、多くの後進の建築家やデザイナーに影響を与え続けています。ジェフリー・バワは、「建築とは環境との対話であり、そこに生きる人々の営みを支えるものである」という視点を、静かに、しかし力強く提示し続けた建築家でした。



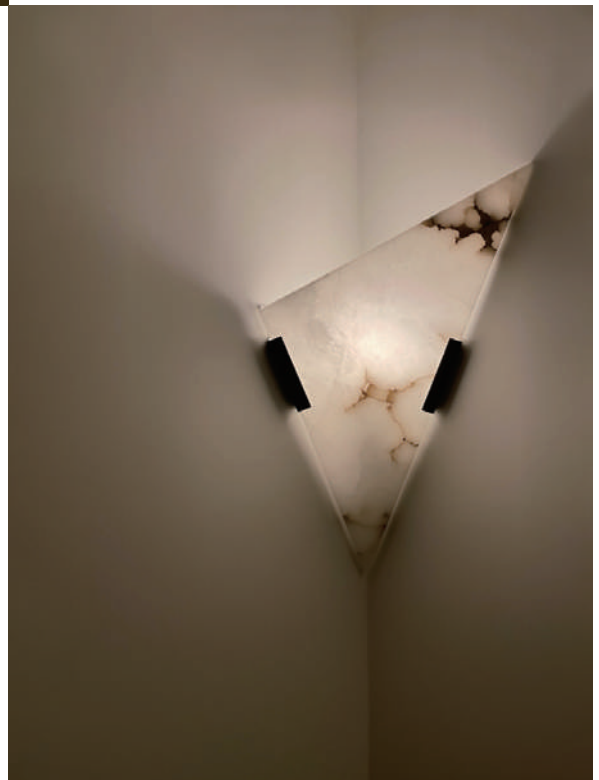
FLY GABY

Size : W254 D152 H228mm



Angle Wall Corner Lamp

Size : W220 D127 H406mm





Nun Lamp-139
Size : W530 D270 H450mm



Nun Lamp-A
Size : W250 D250 H810mm



Nun Lamp-B
Size : W300 D300 H910mm



Nun Lamp-140,141
Size : W400 D400 H1860mm



Curule Stool
Size : W495 D300 H370 SH370mm



Curule Marble Stool
Size : W500 D345 H365 SH365mm



**SIMPLE -SLOPING BLOCK-
Wall Lamp-145,185,230**
Size : W145 D100 H130mm ~



Quart de Rond Lamp
Size : W250 D220 H300mm



Boule Ceiling Lamp-A,B
Size : W280 D280 H420mm
: W420 D420 H550mm



Flower Lamp
Size : W250 D250 H220mm

PIERRE CHAREAU

1883 - 1950



ピエール・シャロー

フランス・ボルドー生まれ。

当初は、絵画や音楽などにも関心があったものの、パリの Ecole des Beaux Arts ,ENSBA(国立高等美術学校) で 建築学を学びました。1908 年に卒業後、シャローはパリに拠点を置く英国の家具会社に勤務し、その後、小規模のインテリアプロジェクトを数多く立ち上げました。シャローが最初に完成させたプロジェクトの一つである友人の Jean Dalsace 博士の書斎 / 寝室のデザインは、パリの Salon d' automne で展示され、その後、ダルサース博士は自邸の設計をシャローに依頼しました。これが彼の代表作となる「ガラスの家 / Maison de verre」の誕生でした。彼は家具、照明、建築デザインに対してモダンなアプローチを取り入れ、マホガニー ローズウッド、アラバスターといった自然素材に、金属やガラスなどの戦後主流となっていた工業的な産業資材を組み合わせました。シャローの作品の特徴は、当時としては珍しい素材の組み合わせでした。

1930 年代は、ファシズム、反ユダヤ主義の台頭、後の第二次世界大戦の勃発によって、ユダヤ人の芸術家、建築家、クライアントの間の絆が強まり、多くのコミュニティが生まれました。ガラスの家をはじめ、シャローのクライアントの殆どはユダヤ人だったと言われています。

1940 年にナチスがフランスを占領した後、自身もユダヤ人だったシャローは、家族を連れてアメリカに亡命をしました。ジャン = ミシェル・フランクとならび、シャローはナチズムの脅威から逃れなければならなかった最も有名なフランス系ユダヤ人デザイナーの 1 人とされており、この出来事が、フランスで順風満帆なデザイナーとしてのキャリアを送っていたシャローの人生を大きく狂わせることとなります。これまでの功績諸共、ナチスによって追放されてしまったシャローは、自身が保有していたモンドリアン、ピカソなどの作品を売り払い、ニューヨークでデザイナーとしてのキャリアの再構築を図りました。近代美術館 (MOMA) などに個展の売り込みを続けましたが、当時の政治的影響により全く相手にされることなく、1950 年に志半ばで人生を終えることとなりました。

戦前、戦後のモダニズム建築史を語る上での最重要人物でありながらも、フィーチャーされることが少なかったピエールシャローの作品は、美術品オークションカンパニーの Sotheby' s、ニューヨークの The Jewish Museum の尽力によって、現代で再び脚光を浴びることになりました。シャローの苦難な人生から約 60 年が過ぎた 2016 年には、アメリカの The Jewish Museum でシャローの念願だったアメリカでの個展が開催されました。単にこういった背景があるから注目されたのではなく、シャローの作品のデザイン性と理念も高く評価されています。



Round Carpet [KENMOCHI-B]

Size : W3000 D3000 H19~54mm



Rectangle Carpet [KENMOCHI-C]

Size : W2100 D1620 H16mm



Calfskin Pattern Carpet [KENMOCHI-D] by Kenmochi Design Associates

Size : W2700 D1800 H40~50mm

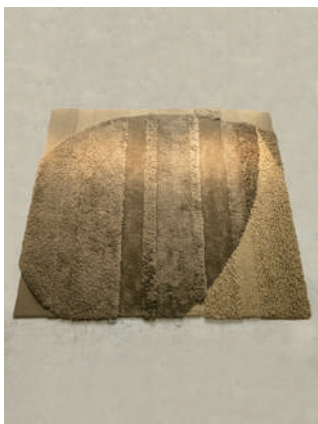
Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.01】

Size : W2400 D2600 H44~54mm



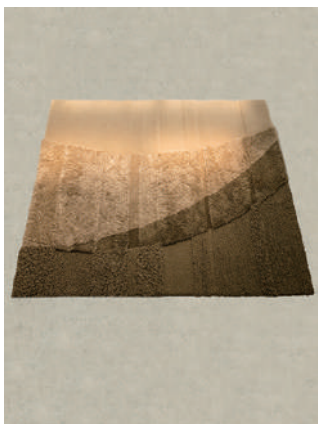
Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.02】

Size : W2400 D2600 H44~54mm



Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.03】

Size : W2400 D2600 H44~54mm



Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.01】



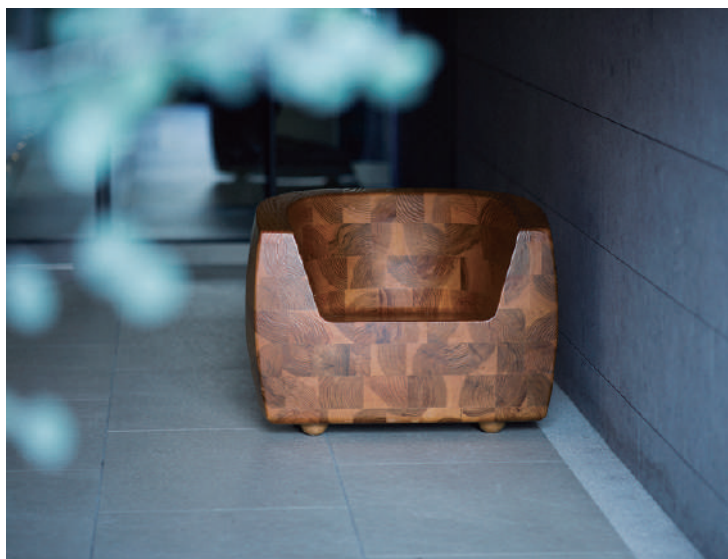
Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.03】



Rattan sofa [C-3150-L]
Size : W2100 D800 H770mm



Stool [S-3020]
Size : W380 D380 H340mm



KASHIWADO Chair
Size : W850 D770 H630 SH330mm



Rattan Lounge Chair
Size : W750 D750 H720mm



Bamboo Series Brass Sconce

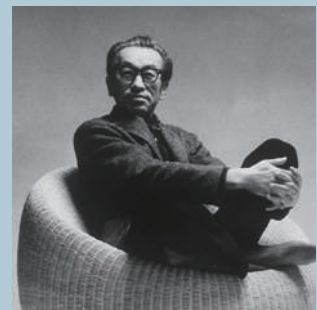
Size : W300 D4000 H140mm

ISAMU KENMOCHI

1912 - 1971

イサム・ケンモチ

日本・東京生まれ。



剣持勇は、日本を代表するインテリアデザイナーです。ジャパニーズモダンと称されるデザインの礎を柳宗理らと共に築いた人物でもあります。剣持は、1932年に東京高等工芸学校木材工芸科を卒業後、商工省の工芸指導所に入所し技師となります。翌年に工芸指導所に来日したドイツ人の建築家ブルーノ・タウト氏のもとで椅子などの「規範原型」の研究を行いました。

1950年には、来日したイサム・ノグチと出会い、丹下健三の指揮のもと、3人による共作のバンブーチェアが誕生しました。1952年には、渡辺力氏や柳 宗理氏らと共に、日本インダストリアルデザイナー協会の設立に協力し、1955年に剣持デザイン研究所を設立。

剣持勇の作品は、美しさ、機能性、持続可能性の融合を体現しており、世界中で人々に影響を与え続けています。1964年には、「ラタンチェア」が、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) の永久所蔵品に選定されました。多くの傑作と呼ばれるプロダクトを誕生させ、ジャパニーズモダンデザインの向上に広く貢献しました。



The Chair 3legs
Size : W500 D470 H685 SH455mm



The Chair 4legs
Size : W500 D470 H685 SH455mm



The Counter Stool
Size : W545 D470 H840 SH610mm



The Backless Stool-A,B,C
3Size



[Option]The Danish Cord Back



The Marolles Bar Stool 3legs
Size : W545 D470 H990 SH760mm



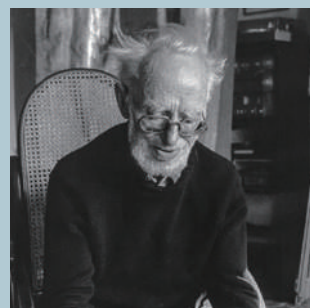
The Marolles Bar Stool 4legs
Size : W545 D470 H990 SH760mm



at SHIROIYA HOTEL - Gunma -

JEAN TOURET

1916 - 2004



ジャン・トゥレット

フランス・ラセ＝レ＝シャトー生まれ。

1930年代から主にインスピレーションを受けましたが、1930年代は、マルクス主義の社会主義、資本主義の民主主義、共産主義とファシズムの全体主義など、さまざまな政治的イデオロギーがぶつかり合った時代でした。

パリ・ボザール校を卒業した若き日のトゥレットは、第二次世界大戦中に捕虜となり、南ドイツのヘルツヘビルゲの森林地帯に送られ、木こりとして働くことを余儀なくされました。そこで彼は、農民の素朴な生活、自然、木工を発見し、フランスに戻ると、新しい人生観に目覚め、パリを離れ、友人の画家モーリス・ロシェに従ってプロワ近郊の小村マロールに移住しました。村の大工エミール・ルロワと親しくなり、3人の職人（鍛冶屋アンリ・ヴィオン、籠職人エドモン・ル・フロヒック、陶芸家マニュエル・ゴールド）と出会い、工芸協同組合「アトリエ・マロール」設立しました。彼らの共同作業と卓越された技術によって、革新的な家具の新モデルが誕生したのです。彼らの作品の前提やアイデンティティは、ミニマルな世界という概念を軸に、木や金属などの自然素材の使用を取り入れたものでした。

トゥレットのユートピアは、1950年代、伝統的なノウハウを認めず、工業材料で作られた画一的な家具を求める風潮を否定するものでした。トゥレットは、職人たちの適性を結集し、家具や装飾品を製作するクラフト・アソシエーションを設立することを決意します。それは、素朴な家具の原型を継承しつつ、シンプルで高貴な、現代的な美を追求すること。素朴な家具の原型を残しつつ、シンプルで高貴な、現代的な美学を発展させるという野望が生まれたのです。そして、成功を収めました。1964年からは、「マロールとロワールとシェールの職人たち」（通称「アルチザナ・ド・マロール」）の芸術監督を離れ、絵画に没頭するようになりました。

1970年頃、同団体は解散します。ジャン・トゥレットは、息子のセバスチャン・トゥレットと共に、多くの教会や礼拝堂のレイアウトや装飾、すなわち彫像、祭壇、幕板を制作しました。彼らのデザイン哲学は、物質の中に生命を求め、控えめでありながら爽快な存在感を生み出し、それに寄り添い、喜ばせることにありました。彼らはこれを、ブルータリズムの手法で、非常に控えめでありながら緻密な美学で表現しました。いまやブルータリズムの家具は、モダンなインテリアの一部となっています。同じように、ブルータリズムのインテリアデザインは、トップクラスのインテリアデザイン・プロジェクトの中に垣間見ることができるのです。



Costela
Size : W740 D800 H830 SH400mm



Costela- Ottoman
Size : W740 D560 H390 SH400mm



Reversível
Size : W1040 D730 H680 SH340mm



MARTIN EISLER

1913 - 1977



マーティン・アイスラー

オーストリア・ウィーン生まれ。

1913年、オーストリアで生まれたマーティン・アイスラーは、1936年に建築の学位を取得しました。しかし、第二次世界大戦の影響により、チェコスロバキア、次いでアルゼンチンへと移住を余儀なくされます。アルゼンチンでは建築家やインテリアデザイナーとして活動を開始し、後に「Interieur Forma」となるインテリアデザイン事務所を設立。1950年代初頭にはブラジルに移住し、そこで新たなキャリアを切り開きました。

1927年、イタリアのブレシアに生まれたカルロ・ハウナーは、ミラノのブレラ美術学院で製図とデッサンを学びました。1948年にはヴェネツィア・ビエンナーレに参加し成功を収め、その後ブラジルに渡ります。ブラジルでは、テキスタイル、陶磁器、家具、建築のデザインに専念し、才能を発揮しました。

1953年、サンパウロでハウナーとアイスラーが出会います。二人は家具製作のビジョンを共有し、ハウナーの義兄エルネスト・ウルフの支援を受けて家具製作会社を設立。サンパウロにあるリナ・ボ・バルディとその夫が所有していた工場を買い取り、「Móvies Artesanal」（職人技の家具）と改名しました。その後、会社は「Forma」に改名し、ブラジルのモダン家具メーカーとして大きな成功を収めます。

Forma社は、ブラジル産の木材と細い筒状の金属フレームを用いたエレガントなデザインで知られ、「コンチャ／ハイア・チェア」（英語名：シェルチェア）や「コステラ」などの代表作を生み出しました。また、1959年にはKnoll社の家具の独占販売権を獲得し、ミース・ファン・デル・ローエやチャールズ・イームズなどの著名デザイナーの作品をブラジル市場に導入することに成功しました。

1958年、カルロ・ハウナーはイタリア人の妻に勧められ、イタリアに戻ります。そこで「Forma di Brescia」を設立し、ローマやバチカン市国のブラジル大使館などを顧客に持ちました。一方、アイスラーはブラジルに残り、建築やデザインを続けました。その後、ハウナーは会社を売却し、シチリア島の小島サリーナで絵画とワイン造りに専念しましたが、1997年に他界しました。

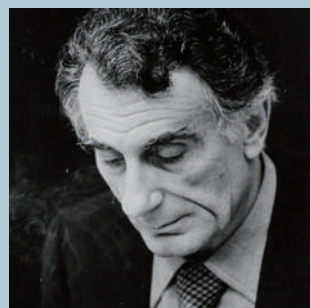
Forma社は1960年代から70年代にかけて最盛期を迎え、ブラジルのモダンデザイン運動を象徴する存在となりました。アイスラーがアルゼンチンで創設した「Interieur Forma」は現在も存続しており、彼のデザインへの貢献が続いています。



Lina
Size : W780 D780 H760 SH410mm

GIANFRANCO FRATTINI

1926 - 2004



ジャンフランコ・フラッティーニ

イタリア・パドヴァ生まれ。

ジャンフランコ・フラッティーニは、1950～60年代のイタリアンモダンデザインを代表する重要人物のひとりです。1949年から1953年までミラノ工科大学で建築を学び、その後、建築家フランコ・ベットニカとともに建築事務所を設立しました。また、在学中から巨匠ジオ・ポンティのスタジオで約4年間経験を積み、建築とデザインの思想を深く学びます。

1954年には、家具メーカー「カッシーナ」の創業者チェーザレ・カッシーナとの協働を開始。この出会いを機に家具デザインへ本格的に取り組み、ベルニーニ、アルテルーチェ、アチエルビス、ファントーニ、アルテミデなど数多くのメーカーと仕事を行いました。1956年には、イタリアのインダストリアルデザイン振興団体ADI (Associazione per il Disegno Industriale) の共同設立にも参加し、同年ミラノに自身のデザイン事務所を開設しています。

1950年代後半からはミラノ・トリエンナーレの理事として活動し、生涯を通してその運営と発展に関わりました。また、木工職人ピエルルイジ・ギアンダとの協働では、木工技術への深い理解と職人技への敬意を示し、素材や製造品質を重視したデザイン哲学を確立しました。インテリアデザインの分野でも才能を発揮し、1960年代のミラノを象徴する社交空間やレストランの内装を数多く手がけています。

フラッティーニの作品は、コンパッソ・ドーロ賞をはじめ数々のデザイン賞で高く評価されました。さらに、ポルトフィーノやカプリ島、東京ヒルトンホテルなどのインテリアも担当し、雑誌『Domus』にも継続的に掲載されるなど、国際的な名声を築きました。1988年にはビエール・カルロ・サンティーニによるモノグラフも出版されています。

彼の代表作には、1956年発表の「Agnese armchair」、1970年のシーティングシステム「Sesann」、リヴィオ・カスティリオーニと共同デザインした照明「Boalum」などがあります。これらは近年、TacchiniやArtemideなどによって復刻され、再び注目を集めています。特に「Boalum」は、柔軟なプラスチックチューブを用いた革新的な照明として知られています。

また、1970年代にはジュエリーデザインやガラス作品も手がけ、プロジェッティのためにデザインしたガラス製品はニューヨーク近代美術館 (MoMA) の永久収蔵品となっています。2004年4月6日にミラノで逝去しましたが、建築・家具・照明を横断するそのデザインは、現在もイタリアモダンデザインの原点として高く評価されています。



Onda Stool

Size : W650 D450 H470 SH470mm

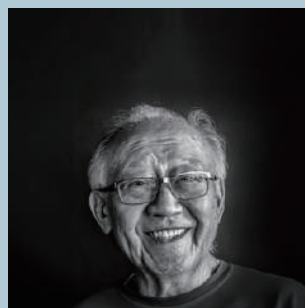


RUY OHTAKE

1938 - 2021

ルイ・オオタケ

ブラジル・サンパウロ生まれ。



ルイ・オオタケは、ブラジルを代表する建築家であり、建築・家具・空間を一体として捉える「トータルデザイン」を実践した人物です。サンパウロ生まれの日系ブラジル人で、1960年にサンパウロ大学建築学部 (FAU-USP) を卒業。ヴィラノヴァ・アルチガスに師事し、構造の明快さやコンクリートの構築性を重視するサンパウロ派の思想を基盤に活動しました。また、母は画家トミエ・オオタケであり、その芸術的環境は彼の造形感覚や色彩意識に大きな影響を与えています。

これまでに300以上のプロジェクトを手がけ、公共建築、ホテル、住宅など幅広い分野で活躍しました。代表作には、トミエ・オオタケ・インスティテュート、Unique Hotel、駐日ブラジル大使館などがあります。彼の建築は、曲線と直線、鮮やかな色彩を融合させた強い造形性が特徴で、都市の中で独自の存在感を放っています。

オオタケは、建築を図面上で完結するものではなく、実際に建てられて初めて成立するものだと考えていました。特に1968年に設計した母トミエ・オオタケの住宅では、建築と家具を分離せず、壁や構造体と一体化した家具によって空間そのものを構成しています。家具は単なる付属物ではなく、建築と同じ原理から生まれる重要な要素として扱われました。

また、1990年代にはカーボンスチールを用いた家具シリーズを発表し、「動く建築」として展開しました。彼の造形の核には「曲線」があり、視線や動きを導くことで空間に時間的な体験を与えています。光と影、色彩を巧みに使い、日本的な陰影感覚とブラジル独自の鮮やかな文化を融合させた点も特徴です。建築から家具、プロダクトへと連続する総合的な設計思想によって、ルイ・オオタケはブラジル・モダニズムに独自の位置を築きました。

João Coffee Table
Size : W960 D970 H430mm



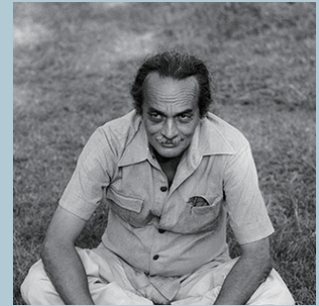
Sela Armchair
Size : W600 D830 H720 SH270mm



JOSÉ ZANINE CALDAS

1919 - 2001

ジョゼ・ザニーネ・カルダス
ブラジル・バイア生まれ。

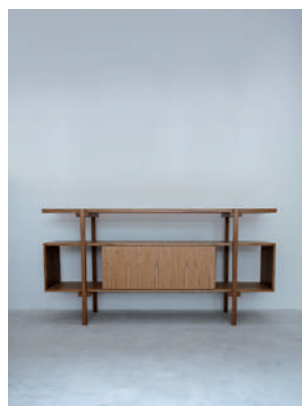


ジョゼ・ザニーネ・カルダスは、デザイナー、建築家、彫刻家、環境保護活動家として活躍し、「木の巨匠」と称された人物です。幼少期から自然や樹木に深い関心を抱き、医師だった父の影響も受けながら育ちました。20歳頃にリオデジャネイロへ移住すると、建築模型工房を立ち上げ、Lúcio Costa や Oscar Niemeyer らブラジル・モダニズム建築を代表する建築家たちの模型制作に携わります。正式な建築教育を受けていなかったものの、現場経験を通じて独自の感覚と技術を磨き、高い評価を得ました。

1948年には家具会社「Móveis Artísticos Z」を共同設立。当時としては珍しかったシナ合板を用いた半量産家具を展開し、「優れたモダンデザインを手頃な価格で提供する」という理念のもと、多くの支持を集めました。曲線を生かした有機的なフォルムと機能性を兼ね備えた家具は、ブラジルの新しい生活様式を象徴する存在となりました。しかし1950年代初頭に会社を離れ、故郷バイアへ戻ります。

その後は、地元の船大工や木工職人たちの技術に影響を受け、倒木や巨大な丸太を素材として活用した彫刻的な家具や建築作品を制作。木そのものの生命力や個性を生かした大胆な作品群は、世界的にも高く評価されました。また、「Móveis Denúncia (告発の家具)」と呼ばれるシリーズでは、乱伐による森林破壊への警鐘を鳴らし、自然保護への強いメッセージを発信しました。

1980年代には森林保護を目的とした「DAM (ブラジル木材利用開発財団)」を設立し、廃材や倒木の再利用、植林活動を推進。木材を未来へ受け継ぐべき自然の財産として捉え、持続可能なデザインの重要性を訴え続けました。1990年にはパリ装飾芸術美術館で個展を開催するなど国際的な評価も高く、ブラジルの自然、伝統工芸、モダニズムを融合させた独自の表現によって、ブラジルデザイン史に大きな足跡を残した人物です。



Caicara Sideboard

Size : W1800 D460 H900mm



SR Sideboard

Size : W1660 D500 H650mm





Caipira Stool

Size : W270 D260 H260mm

MARCENARIA BARAÚNA

1986-

バラウナ工房

ブラジル・サンパウロで設立。



建築デザイン分野で活躍していたフランシスコ・ファヌッチ、マルセロ・フェハス、マルセロ・スズキによって、1986年にブラジル・サンパウロで設立されました。

設立者たちは他分野の専門家と交流し、多様なプロジェクトに取り組みました。その中でも代表的なのが、マルセロ・フェハスとリナ・ボ・バルディが共同で手がけた「SESCポンベア文化センター」です。このプロジェクトをきっかけに、デザインした家具を自ら製作するための家具工房を設立し、バラウナ工房での家具製作が始まりました。翌1987年には、フレイ・エジディオチェアやジラフチェアの製作・販売が本格化しました。バラウナ工房の家具デザインは建築的アプローチが特徴です。構造、バランス、素材の特性、快適さ、生産効率などを細部まで追求し、形状や構造、素材に基づいた明確な理由を持つ家具を生み出しています。

1994年にマルセロ・スズキが退社した後も、フランシスコ・ファヌッチとマルセロ・フェハスがアドバイザーとして工房を支えています。現在も職人による丁寧な手作業で家具製作を続けるほか、リナ・ボ・バルディの複製プロジェクトにも積極的に取り組んでいます。また、2人は建築設計事務所「Brasil Arquitetura」も共同運営しており、その建築プロジェクトで使用される家具や什器の製作をバラウナ工房が担っています。

バラウナ工房では、建築プロジェクトのために生まれた家具だけでなく、クライアントからの特注デザインにも対応しています。オーダーメイド家具を通じて空間や用途に最適なデザインを提供し、建築と家具の密接な関係を重視しながら、職人技とデザインが融合した唯一無二の家具を生み出し続けています。



DW 02 Book Shelf Small
Size : W1100 D180 H780mm



DW 02 Book Shelf Large
Size : W1755 D180 H780mm



DW 03 Chair
Size : W500 D460 H810mm

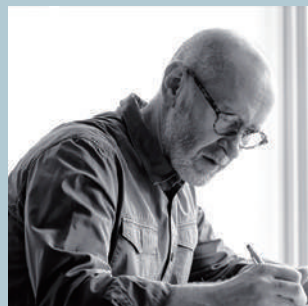


DW 01 Stool

Size : W395 D395 H415mm

DEREK WELSH

デレク・ウェルシュ



スコットランドのグラスゴー在住のデレクは、手作業での木工制作を25年以上の経験を積んでいます。彼は小さな工務店の見習い時代から、オーダーメイドのインテリアマテリアルや家具の制作を手掛けてきました。彼の作品には、手仕事の技術と限界、喜び、そしてそれらを追求する厳しさへの敬意が反映されています。彼の作品に欠かせないのは、「今まで作ったことのないものを作りたい」という飽くなき欲求だといいます。独立後のDerek Welsh Studioでもなお、高品質のクラフトマンシップに忠実であり続けています。



Room Divider

Size : W1550 D45 H1600mm~



Coffee Table

Size : W1400 D1000 H300mm



Book Shelf
Size : W1400 D230 H150mm



Floor Lamp
Size : W300 D300 H1400mm



Trestle Table
Size : W1600 D800 H720mm~



Table Lamp
Size : W400 D400 H815mm



Modular Sofa Unit (Both Arms)
Size : W1250 D890 H620 SH380mm



Modular Sofa Unit (One Arm)
Size : W1130 D890 H620 SH380mm



Modular Sofa Unit (Armless)
Size : W1010 D890 H620 SH380mm





Side Table

Size : W750 D375 H210mm~



| X+L
1996-

エックスアンドエル



x+lは、オランダのアムステルダムを拠点とするデザイナー、Xander VervoortとLeon van Boxtelです。舞台や撮影のための美術にバックグラウンドを持つ二人は、1996年にインテリアデザインのためのx+l studioを設立しました。彼らは長年に渡り、写真、広告、舞台美術、ファッション、展示デザインなど、さまざまな分野で活躍してきました。これらの依頼されたプロジェクトに加えて、一点物や非常に小数のみ生産するハンドメイドのオブジェクトを制作しています。職人の友人とも密接に協力し、x + lらしさを常に探求しながらものづくりをしています。彼らの作品の魅力は不規則さにあります。ハンドメイドだからこそ生み出すことができる、デザインやテクニックを用いて、それらの不完全性が、美しさとしてあらゆる人に受け入れられるような活動を目指しています。

◆CASA DEはPhantom Handsの国内総代理店です。



Mungaru Dining Chair
Size : W495 D505 H770 SH455mm



Mungaru Easy Armchair
Size : W715 D630 H735 SH395mm



Mungaru Gallery Chair
Size : W535 D570 H730 SH420mm





Mungaru Side Table
Size : W395 D330 H505mm



Tangāli Modular Chair(Both Arms)
Size : W710 D595 H690 SH380mm



Tangāli Modular Chair(Armless)
Size : W565 D595 H690 SH380mm



Tangāli Modular Chair(One Arm)
Size : W640 D595 H690 SH380mm



Tangāli Side Table
Size : W550 D550 H385mm

Tangāli Coffee Table
Size : W1050 D1000 H410mm

Tangāli Day Bed
Size : W745 D1900 H410 SH410mm

Tangāli Bench
Size : W435 D1800 H410 SH410mm



Tangali Dinning Chair (Armless)
Size : W555 D535 H790 SH450mm



Tangali Dinning Chair (Both Arms)
Size : W615 D535 H790 SH450mm



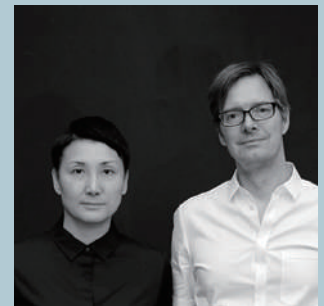
Tangali Comfort Chair (Both Arms)
Size : W720 D730 H720 SH320mm



Tangali Ottoman
Size : W605 D400 H340 SH330mm

| INODA + SVEJE

2000-



イノダ+スバイエ

イノダ+SVEJEは、猪田恭子(日本)とニルス・スバイエ(デンマーク)建築デザインの専門家であり、2000年にコペンハーゲンで設立され、後にミラノに拠点を移したデザインスタジオです。彼らはデザインプロセスにおいて調和と美しさの要素を組み合わせる繊細なアプローチを開発し、外部デザイナーとして様々なプロジェクトに取り組んでいます。特に、スタートアップ企業やハイテク機器分野でのデザインに関与しています。

彼らのプロジェクトの一つは、チャンディーガルの家具を再編集する取り組みで、このプロジェクトは同じ「ものづくりの哲学」に基づいた新しい作品を創造することを目指しています。そのために、PhantomHandsとのコラボレーションが始まりました。

Phantom Handsは、INODA+SVEJEがデザインしたDC10とDC09の椅子に魅了され、彼らとコンタクトを取りました。2人は、PhantomHandsの工房を訪れて職人の技術を学び、デザイナーと職人のハンズオンコラボレーションを重視しました。その結果、Mungāru Gallery Chairという椅子が生まれたのです。この椅子はすべて手作業で製作されており、モンスーンの到来と共に椅子のデザインと試作が行われたことから、カンナダ語で「モンスーン前の穏やかで生命力を与える雨」を意味する「Mungāru」という名前が付けられました。



Nandi Dining Chair

Size : W505 D470 H790 SH455mm

Nandi Dining Table (6 Seater)

Size : W2250 D900 H730mm

Nandi Dining Table (8 Seater)

Size : W2800 D900 H730mm



Nandi Day Bed with mattress / cushions

Size : W2045 D925 H280 SH240mm



Nandi Bench with mattress

Size : W2040 D465 H385 SH345mm



Nandi Study Table

Size : W900 D550 H750mm

Nandi Study Stool

Size : W355 D370 H470 SH450mm

| KLEMENS GRUND

1982-



クレメンス・グルンド

ドイツ・ブラックフォレスト生まれ。

スイスのザンクト・ガレンを拠点に活動する家具デザイナー、職人、木工作家です。

2007年にアーヘンのグート・ローゼンベルク工芸学院を卒業し、以前はピーター・ズントーの建築スタジオ（ハルデンシュタイン）でマスターデザイナーとして働いていました。2014年にドイツのケルンに自身のデザインスタジオを設立。その後、彼の作品は、ミラノのサローネ・デル・モービレ、アイントホーフェンのオランダデザインウィーク、上海のCIFF、チューリッヒのノイエ・レウメなど、さまざまな場所で展示されています。彼はNRW州賞、アブラハム&レントゲン賞、スタイルパーク・セレクトッド賞を受賞しています。独立したデザイン活動の他に、現在クレメンスはザンクト・ガレンのアートプロダクションワークショップ、クンストギエスセライ・ザンクト・ガレンの3Dスタジオで働いています。



Niwar Sofa (3 Seater)
Size : W2162 D747 H643 SH378mm



Niwar Sofa (Single Seater)
Size : W838 D747 H643 SH378mm



Niwar Ottoman (Wide)
Size : W766 D436 H378 SH378mm



Niwar Lounge Chair
Size : W600 D700 H679 SH374mm



Niwar Ottoman (Regular)
Size : W600 D400 H378 SH378mm

BIG GAME

2004-



ビッグ・ゲーム

BIG-GAMEは、2004年にオーギュスタン・スコット・ドゥ・マルタンヴィル、エルリック・プティ、グレゴワール・ジャモノによって設立されたスイス拠点のデザインスタジオです。彼らの作品は「シンプルで機能的で前向き」と表現され、アレッシ、HAY、カリモク、無印良品、レクソン、ネスプレッソ、ムスタッシュといった企業のために、さまざまな製品やアクセサリをデザインしています。BIG-GAMEの作品は、手に取りやすく、魅力的でありながら、何よりも実用的であることが特徴です。

スタジオはこれまでに、スイスデザイン賞、IFデザイン賞、ウォールペーパーデザイン賞、グッドデザイン賞、ウブロデザイン賞、デザイン・プライス・シュヴァイツなど、多くの賞を受賞しています。また、その作品は、Museum für Gestaltung、グラン・オルヌ博物館、ポンピドゥーセンター、MoMA（ニューヨーク近代美術館）などのコレクションにも収蔵されています。

BIG-GAMEはスイス・ローザンヌに拠点を置き、5〜7人のチームで活動しています。デザイン業務に加え、3人の創設者はローザンヌ美術大学 (ECAL) の教授も務めています。

【創設メンバー】

グレゴワール・ジャモノ

1978年生まれのスイス人。ヴォー州で育ち、ローザンヌ美術大学 (ECAL) でインダストリアルデザインを学び、2003年に卒業しました。

エルリック・プティ

1978年生まれのベルギー人。ベルギーとアルジェリアで育ち、ブリュッセルのラ・カンブル国立美術大学でインダストリアルデザインを学び、2003年に卒業しました。

オーギュスタン・スコット・ドゥ・マルタンヴィル

1980年生まれフランス人。中国（北京と香港）で育ち、ローザンヌ美術大学 (ECAL) で学び、2005年に卒業しました。



Palakkad Chair

Size : W470 D525 H855 SH470mm

NITYAN UNNIKRISHNAN

1976-

ニティアン・ウンニクリシュナン
インド・ケララ生まれ。



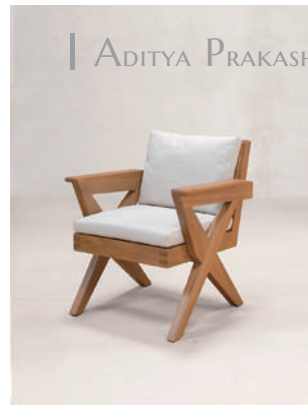
ニティアン・ウンニクリシュナンは、インドのゴアを拠点に活動するアーティスト兼デザイナーです。彼の作品は、Chatterjee & Lalなどの多くの主要なギャラリーや美術館で展示されています。アーメダバードの国立デザイン研究所 (NID) で工業デザインの大学院を修了した後、陶芸家として活動し、インドの農村部各地で工芸開発プロジェクトに取り組んでいました。2010年からはフルタイムで絵画と彫刻を始め、以来一貫して展示を行っています。

彼が家具デザインに取り組むようになったきっかけは、DIYでした。自宅用の合板ダイニングテーブルを作ったことをきっかけに、その後の10年間で多くの家具デザインプロジェクトを手掛けるようになり、その多くは友人や家族のためのものとして制作されました。ニティアンのデザイン美学は、インドの芸術と工芸の多様で無限の層、インドの独立後のモダニズム、そしてある程度はNIDでの経験から得た西洋のモダニズムの間に位置しています。



AP Dining Chair

Size : W840 D455 H480 SH440mm



AP Lounge Chair

Size : W730 D670 H620 SH360 AH550mm

ADITYA PRAKASH

1924 - 2008

アディティヤ・プラカーシュ

インド・ムザファルナガル生まれ。



アディティヤ・プラカーシュは、インド独立後の国家建設を支えた第一世代の建築家であり、建築家であると同時に、家具デザイナー、画家、写真家、作家としても活動した多才な人物です。1952年にロンドンでの建築教育を終えて帰国後、独立インドを象徴する新都市チャンディーガルの建設計画にジュニアアーキテクトとして参加しました。都市計画を主導したル・コルビュジエやピエール・ジャンヌレのもとで、公共施設や教育機関、劇場など数多くの設計を担当し、チャンディーガル建築大学(CCA)、中央工芸研究所、地方裁判所、タゴール劇場などを手がけました。

特にタゴール劇場では家具デザインも担当し、チャンディーガル家具の発展にも貢献しています。ジャンヌレから設計を任されるほど信頼が厚く、設計思想を共有しながらも、単なる模倣ではなく、インドの気候や素材、技術に適応した独自のモダニズムを追求しました。コルビュジエのモデュロールをインド産レンガに合わせて調整したことは、その姿勢を象徴しています。

1963年にはパンジャブ農業大学のキャンパス設計を担当し、その後CCA校長として1982年まで建築教育にも尽力しました。建築と社会の関係を重視する思想を次世代へ継承し、チャンディーガルの発展を支えた重要人物の一人とされています。

また、建築にとどまらず、絵画や写真、執筆活動を通して自身の美学を探求し続けました。彼が設計した建築や家具は現在も多くが使用されており、人々の暮らしに自然に溶け込みながら、美しさと機能性を保ち続けています。気候や素材、人の動きに寄り添うその設計思想は、現代の建築家やデザイナーにも大きな影響を与えています。

DESIGNER

— MIDCENTURY

- Pierre Jeanneret
- Lina Bo Bardi
- Pierre Chapo
- Gianfranco Frattini
- Jorge Zalszupin
- José Zanine Caldas
- Serge Mouille
- Ricardo Fasanello
- Sergio Rodrigues
- Martin Eisler
- Jean Touret
- Isamu Kenmochi
- Geoffrey Bawa
- Pierre Chareau
- Isamu Noguchi
- Aditya Prakash
- Ruy Ohtake
-

— CONTEMPORARY

- Marcenaria Baraúna
- Derek Welsh
- Nityan Unnikrishnan
- INODA+SVEJE
- Klemens Grund
- x+I
- BIG GAME

BRAND



LinBrasil

EDITIONS SERGE MOUILLE

Sergio Rodrigues
• ATELIER •

31

MOBILIÁRIO

Tendo



Furniture Marolles

Galerie MCDE
édition Pierre Chareau



Tacchini



Art Modern Japan 株式会社 CASA DE : 東京都板橋区小茂根 2-13-10

Tel : +81 (0)3 6276 5323 / contact@gallerycasade.com

Open by appointment only.



LINE



HP



Online Store



Instagram